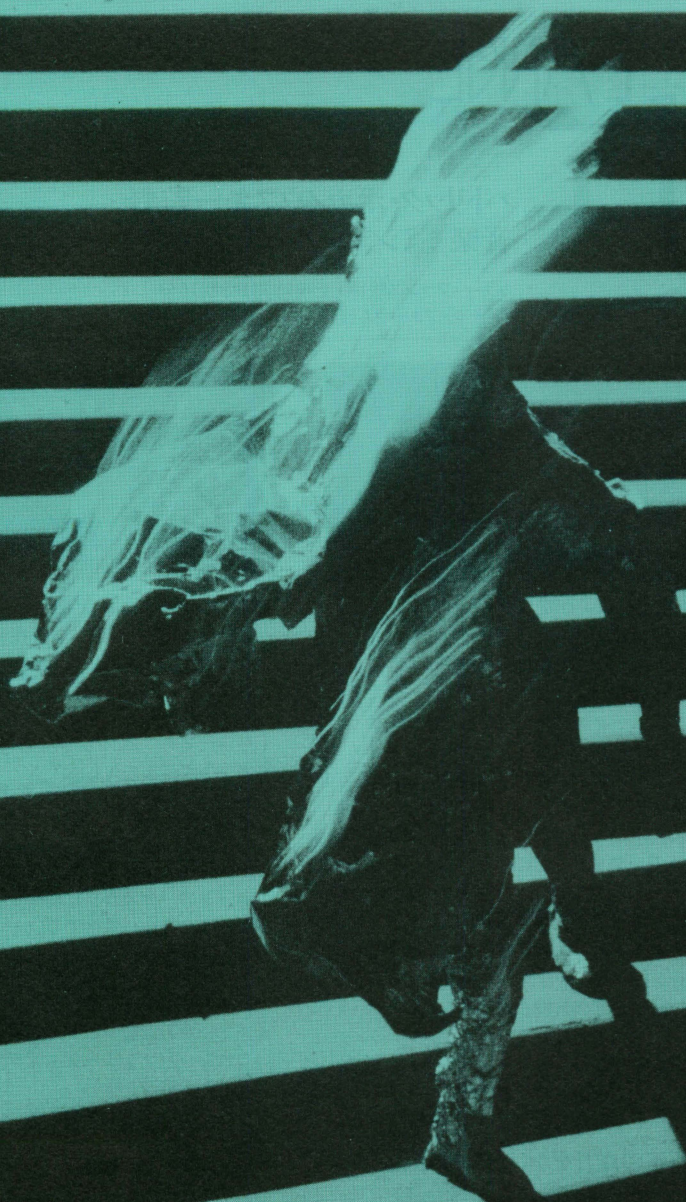


記憶の彼方に、天使を見たか？



天使^{L'ANGE}

パトリック・ボカノウスキー監督
音楽：ミシェル・ボカノウスキー

ヴァイオリン・ピオラ・レジス・バスキエ / チェロ・フリップ・ミュレール / コントラバス・フリップ・ドロゴーズ

出演

モーリス・バケ
ジャン・マリー・ボン
リタル・ノワール
マルティヌ・クチュール

フランス映画・カラー・上映時間＝1時間10分・KIRA B.M. FILMS(仏)製作・1982年カンヌ映画祭批評家週間出品作品

イメージ・フォーラム提供
IMAGE FORUM

L'ANGE 天使

パトリック・ボカノウスキー監督
音楽：ミシュール・ボカノウスキー

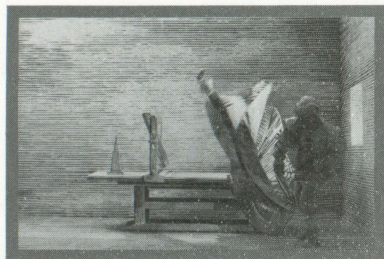
カラー・フランス映画・上映時間1時間10分
イメージ・フォーラム提供

《スタッフ》

監督……………パトリック・ボカノウスキー
音楽……………ミシュール・ボカノウスキー
映像・特殊効果……………パトリック・ボカノウスキー
撮影……………フィリップ・ラヴァレット
装置・ミニチュア……………クリスチャン・ダニノス
……………パトリック・ボカノウスキー
仮面……………クリスチャン・ダニノス

《キャスト》

図書館員……………モーリス・バケ
風呂の男……………ジャン＝マリイ・ボン
召使女……………マルティヌ・クチュール
サーベルを持つ男/手のない男……………ジャック・フォール
徒弟……………マリオ・ゴンザレス
芸術家……………ルネ・パトリニャーニ
女……………リタ・ルノワール



●これは、まさに

フランス映画界における事件である！

84年4月、パリで一般公開されるやいなや、フランスのマスコミ各紙はいっせいに「まさに最初の映画」(リベラシオン紙)として最大級の絶賛を贈った。奇しくもこの映画館は、半世紀前にあの『アンダルシアの犬』を初映した由緒あるユルジュリス座。〈奇跡の映画〉の再来として、たちまちフランス映画界の話題を独占した。国立視聴覚研究所の全面的な支援による35mmの長編、型破りな映画構成、短編をわずか二作制作したきりの無名の個人映画作家の登場、そして実験映画としては特例のロングラン上映と、異例づくめの映画『天使』は、いままさにフランス映画界に新しい伝統を築こうとしている。



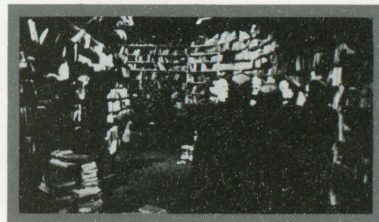
●光と音による映像パフォーマンス！

「物語は観客ひとりひとりが自由に創作してくれればよい」と監督自身が訴えているように、この映画には明確なストーリーはない。七つのシークエンスに分かれた悪夢のように繰り返す幻想的映像と、ミシュール・ボカノウスキーの弦を中心とした魅惑的な音楽。70分間の光と音の世界は、観客を迷宮におとし入れ、そこに観客はいつか見た「天使」と「悪魔」を垣間見ることになるだろう。なぜならこれは、見る側の潜在意識をえぐり出すための、映像パフォーマンスであるからだ。

きわめて不可思議な登場人物を演ずるのは、ジャン・ルノワール作品『ランジュ氏の犯罪』、『どん底』などの名優で知られるモーリス・バケ、パリの著名なキャバレー「クレージー・ホース」のかつてのスター、リタ・ルノワール、そしてパントマイム出身のジャン＝マリイ・ボンなど、異色のキャスト陣。

●5年の歳月をかけた特殊撮影！

『天使』の最大の特徴は、シークエンスごとに異なる特殊撮影だ。膨大な書籍の山の中で忙しく動きまわる図書館員たち、中世の銅版画のイメージ、百年前のドイツの漫画から着想したといわれる、ケラケラ笑いこころげながら風呂につかっている禿げ頭の男——。それらのオリジナル・イメージを損わないように、メリエスの映画に見られるような古典的な特殊効果、ミニチュアとの合成など、ここではありとあらゆる技法を使ったコマ単位の作業が施されている。セットを作り、撮影するのに2年を要し、特殊効果と編集になんと3年を費した！



●フランス各紙誌が絶賛！

『天使』は眩惑と同時に音、視覚と同時に音楽である。音楽の調和と不協和によって、観客をゲームに誘い込む。(日刊紙「ル・モンド」)

これは、ジョージ・ルーカスのスタジオで修業をつんだレオナルド・ダ・ヴィンチが作った、フランス最初のSF映画。(日刊紙「リベラシオン」)

ミシュール・ボカノウスキーの音楽は、ヒッチコックの『サイコ』におけるバーナード・ハーマンの音楽に匹敵する。(ミシュール・シオン——映画雑誌「カイエ・デュ・シネマ」)

ホフマンやベケットやゴッリやカフカやフェルメールの影響のこぼれた煮を発見せずにはいられない。(フィリップ・コラン——女性誌「ELLE」)

これは1本のフィルムだろうか？ もちろんそれ以上のものだ！(女性誌「マリイ・フランス」)

思いもかけぬ映画、人を魅了し茫然自失させる映画であり、この10年間に現われた稀なる映画である。(ドミニク・ノゲーズ——美術誌「アール・ヴィヴアン」)



シネ・ヴィヴアン・ナイト・シネマテーク第1弾！

4月11日(金)夜間ロードショー！

但し4月26日(土)以降の金曜・土曜は休映 ●連日夜9:20より(10:30まで)

特別鑑賞券1,100円絶賛発売中 都内各プレイガイド、チケット・セゾン、チケットぴあ他にてお求め下さい。

当日＝1,300円均一／イメージ・フォーラム会員＝1,100円 自由席・定員制

CINE VIVANT

シネ・ヴィヴアン・六本木

地下鉄六本木駅下車・テレビ朝日側出口

WAVE地下1階

お問い合わせ＝03(403)6061